

ナラ枯れ対策の問題点

- 1.被害が広範囲に及ぶため、全てのナラの木を守ることはほぼ不可能
- 2.カシナガは木の中にいるので、木の中での殺虫は難しく、木が枯れるまでに被害を押しやるのがポイント
- 3.生きている木を保護する方法が、まだ確立されていない

対策は色々あるが、その森の現状に合わせた対策を取る必要がある。

予防と駆除の大きく別けて2つの段階がある。

～既存の対策一覧～

①.ビニールシートによる被膜【予防】・【京都府推奨】

ビニールシートで、高さ2～4mの高さにシートを巻き、虫が入るのを防ぐ方法。

○メリット …環境に優しい・だれでもできる

×デメリット…手間・虫が増えると、巻いたシートよりも高い位置にはいって木を枯らす
根っこの部分など、巻きにくい木がある。

②.焼却、チップ、薪【駆除】【森林総研検討中?】

手間がかかるが、一番安全な方法。薪にする場合は、被害が広がらないようにしっかりと虫がでないことを確かめる必要がある。ただ今実験中。(山形県ではガイドラインにより移動禁止)

○メリット …バイオマスエネルギーとしての利用をすることで、森の若返りに貢献

×デメリット…虫を完全に殺せるか?被害の拡散

③.萌芽更新による森の若返り【予防】【遊林会推奨】

ナラ枯れは太い木で起きやすいので、伐って萌芽させ、森を若返らせる

○メリット …森林の健全な維持

×デメリット…コナラは40年生をこえると萌芽しにくい(20%以下)・場所・専門家が必要

④.爪楊枝による対策【予防】【民間ボランティア推奨】

爪楊枝をさすことによって、カシナガの邪魔をし、マスアタックさせないようにする。

ビニールシートと併用することで、効果を高める

○メリット …環境に優しい・だれでもできる

×デメリット…時期を選ぶ・手間がかかる・ボランティアの数が足りない

⑤.NCSによる燻蒸殺虫【予防・駆除】【全県推奨】

燻蒸による殺虫。基本的には枯れた木への対策であるが、生きている木にも使うことがある。

5-1 枯れた木を玉切りにして、ノコ目をいれ、NCSをかけてビニールで覆う方法。

5-2 枯れた木を切らずに、立ったままの木の地際付近にドリルで穴を開け、NCSを入れて、被覆、またはそのままにする方法

5-3 虫は入っているが、まだ生きている木にドリルで穴→注入→ラップ有 or 無。

来年の数を減らし、木を活かす

○メリット …現在この方法が、駆除効率としては一番。

×デメリット…薬剤の使用・シートで被膜など、斜面現場では困難。後処理も。

⑥. 殺虫剤と接着剤を利用した駆除【予防・防除】・【山形県・林野庁推奨】

粘着剤と殺虫剤を混ぜることで、長い期間の効果を狙う

健全木には予防効果、被害木には穴をふさぐので、環境が悪化し、幼虫が死亡

6-1 先に殺虫剤をまき（ヤシマ産業製スミバーク E10 倍希釈・若干の浸透制有）、その後、接着剤（住友スリーエム制 J A 7562）を塗布する

6-2 殺虫剤（フェニトロチオン等）と粘着剤（アクリルエマルジョン系）を混ぜて塗布する

○メリット …特別な農薬ではないので、抵抗感が少ない・虫を減らせる・安い（100円～200円）

×デメリット…薬剤の使用・なにより粘着剤を塗布は大変。毎年必要？

⑦. 殺虫剤・MEPのみ散布（スミチオン等）【予防・防除】・【石川県推奨】

木に直接スミチオンなどの乳剤を散布する方法。2回に分けて散布する

○メリット …特別な農薬ではないので、抵抗感が少ない・虫を減らせる

×デメリット…時期を選ぶ・薬を使うので、実行者は服装に注意。他の虫も死ぬ

⑧. 接着剤（ウッドガード等）のみ散布【予防・防除】【山形県推奨】

虫が入らないように、全面的に防ぐ。ビニールシートとの併用も。

上部はビニールシートで、巻きにくい下部は接着剤など【ノエビア】

○メリット …農薬をつかわない・

×デメリット…大変。お金もかかる

⑨. 薬剤注入による予防【予防】【栗東市実例】

殺菌剤ケルスケット（ヤシマ産業製）、ウッドキング SP（サンケイ化学製）、活性剤 ナラ用活性剤 MSY-104 等の樹冠注入による予防。

○メリット …見栄えが良い

×デメリット…高価（1本6000～10000円）。効くかどうか、まだよく分からない

⑩. 線虫による駆除

枯れた木に、カシナガの幼虫の天敵となる線虫を水に溶かして注入【岐阜県実験中】

○メリット …農薬を使わない・生きた木にも使える

×デメリット…線虫のその後・多様性の問題

⑪. フェロモン・おとり木による予防【予防】

まだ実験段階

～具体的な対処～

森林の現状に対して、適切な対処法を組み合わせる必要がある。状況として、以下の段階で考える。

- 1.既に枯れた木
- 2.虫は入っているが、枯れていない木
- 3.まだ虫の入っていない木

1.既に枯れた木に対する方針

放置すると、来年にはより多くの木を枯らすことになるので、退治するのが望ましい。しかし、全ての木を対処するのは難しい。予算面、安全面。どこまでするか？（例：近江八幡・お金がある限り）

【対策】②、⑤

2.虫は入っているが、枯れていない木

樹液等がでており、木が勝つ＝虫が繁殖していない木では、そのままにしておく。
やっかいなのは、木が生きており、虫も繁殖しているパターン。

【対策】②、④、⑤、⑥

3.まだ虫の入っていない木

全ての木を守るのは無理。どの面積の森を、どのような方法で守るのか？

予算、人員、方法など、場所や団体により方法論が変わる

①、③、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩

～まとめ～

・現在の東近江のような爆発的にカシナガの数が増えている状況下では、全ての木を守るのは現実的に無理。どの場所を、どんな方法で、誰が？などをはっきりさせておく必要がある。

・ナラ枯れは「過度の自然利用→破壊→環境問題」ではなく、「無関心・放置→環境問題」という新しい構図。自然に任せるべきだ、という結論は自然と人間との関係を放棄することでもある。

・極相林が全てではない。その時々気候や地域特性により、植生は変化している。

・長い目で見れば、木が枯れることにより、植生遷移が促進されていることになる。

ただし、荒れ地や鹿の多く住む場所では、森林が再び成立しない地点が出てくる。そこが重要な問題。

・これまで生活のために必要として管理してきたどんぐりの木との関係を保てなくなっている。その結果、どんぐりの木に依存して生活しているいきものにとっては、つらい結果となる。